

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Jodie rises to machinery challenge

オーストラリア

## 元看護師、農機屋に転職

「それ以来、整備士の仕事以外にも、帳簿や部品の管理など、会社が必要とされるすべての仕事をしていきます。販売に熱中したこともありませんが、今は内勤です。販売など外回りは父が担当しています」転職は劇的な方が上手く行くのかもしれない。



クイーンズランド州南部、グンディウインディ農機店に電話で部品交換を頼んだある農業経営者は、ジョディ・イグリントン女史の親しみやすい声を聞いて、すっかり虜になってしまった。元看護師の彼女は両親が1980年に始めた、新品も中古品も取り扱う農機店が忙しくなったので経営を手伝い始めたのだ。彼女は両親の会社に入る前は、ずっと看護師をしていた。



看護師だったジョディ・イグリントン女史の転職先は、農機店。転職は劇的な方が上手く行くのかもしれない。

Demand for smaller new combines

フィンランド

## 新しい小型コンバインの需要

1957年からコンバインを製造販売しているサンボ・ロゼンリュ社は、フィンランドの国内市場の50%以上を占有している。一方、海外でのシェアはこれまで拡大しようとしても、なかなか思うように伸びなかった。ところが最近この状況が一変している。国内市場では相変わらず圧倒的に優位でありながら、同社製品の約70%は外国に輸出されているのだ。輸出事業はいつの間にか、同社の損益に大きく影響するものとなっている。

例えば英国のような、大型コンバインが当りまえの国から問い合わせが来ると、同社のビジネスチャンスだ。もっとも同社が得意とするのは小型コンバイン。例えば同社のベストセラー製品は小型コンバイン。例えは同社のベストセラー製品のヘッド部分の幅は4.2mしかない。それではなぜ英国から問い合わせが来るのかというと、小型で、安価で、きめ細やかなサービスが受けられるハーベスタを探している、どちらかというと小規模の穀物生産者が、条件に合った良質の中古機械を見つけているのが、どんどん難しくなっているからなのだ。

それからめぐりめぐって、ヘッド部分の幅が3mの最小モデルから始まるサンボ社製2000型シリーズが注目されている。現在、同社は取り扱いディーラーを探しているほどだ。



サンボ・ロゼンリュ社は、ヘッド部分が3~6.3mの小型コンバインシリーズを製造販売している。

No driver's licence for tractors

オランダ

## トラクタには免許不要



く、これで何か変わるのだろうか？ おそらく以前と何も変わらないだろう。

既存の16歳や17歳の年齢証明書はなくなるが、最高時速25kmを守れば彼らは道路を走行できるのだ。これらの政府提案は単純で些細な内容なのだが、農業経営者や契約請負業者の組織は主に余分なコストがかかることを理由に反対している。賛否はともかく、これをどうにか変えるのだろうか？ おそらく以前と何も変わらないだろう。



通称はネーデルランドというこの国、俗称ではオランダと呼ばれる。その国民は昔からダッチと呼ばれる、ダッチ（オランダ語）という言葉を使っている。ややこしくてあまり合理的でないような気がするが、同国の自動車免許制度も同じようにややこしい。オランダ人は自動車免許がなくても、特別な免許なしでトラクターを運転できるのだが、政府は最近になって18歳以上のトラクターを運転する者は最低限でもBE運転免許を取得していなければならないことになっていると提唱し始めた。この免許証はアタッチメント類を含めて総重量3.5tのトラクターを操作できることを証明するものだ。



**Organic material in orchards**  
南アフリカ

**果樹園には有機肥料を**



近年、インターネットにアクセスできるようになり、堆肥とマルチを利用した最新の栽培技術に興味を持つ農業経営者が増えている。これに対応して南アフリカでクーン社製品の輸入卸業を営むロヴィック&レアス社は、最新のマニアスプレッダを積極的に紹介している。

同社によるとクーン社製マニアスプレッダは、果樹園やブドウ園に堆肥を効果的に散布し、特にナイト型はブドウ畑の畝や、果樹の下の土に直接堆肥を散布することができる。そして散布率と散布パターンを機械的に変えることで、土壌面にできる堆肥層の厚みを自在に調整できる。有機物層は土壌環境を改善して微生物を活性化して、耕地全体でミネズが増殖するようになる。その上、雑草の発芽を抑制する効果も期待できる。



南アフリカでロヴィック&レアス社が販売するマニアスプレッダは、堆肥成分をブドウ園の畝や果樹の根元において直接施肥できる。

**One-pass harvest**  
米国

**ワン・パス型の収穫システム**



米国の農業機械メーカーの巨人AGCO社が、セルロース原料になる作物残渣を収穫する手頃で効果的な新しい方法を模索している。数年の研究開発を経て2009年末に米国アイオワ州エミッツバーガ市近郊でPOETが開催したプロジェクト・リパティ・フィールド・デイの会場で、AGCO社はバイオマス収穫システムのプロトタイプを発表している。

既存のハーベスター技術とヘストン社製の大型ベアラのペアが、汚れを落としたトウモロコシの穂軸と葉を集めて0.9m×1.2mの梱包にして行く作業はワン・パス・アプローチ（一回で済む流れ作業）だ。このシステムは農地を1回通過するだけで、作物の収穫と残渣を集める作業を同時に行なうから時間が節約できる。既にアイオワ州東北部で14人の農業経営者がプロトタイプの実地試験に参加している。同プロジェクトはセルロース原料から年間9500万トンのエタノール燃料を生産しようというものだ。

「我が社は全国の顧客にセルロースからできるバイオ燃料で新たな収入を得る機会を提供していますが、この市場がさらに発展するためには新しい機械設備が必要になるでしょう」と語るのはAGCO社で干草と飼料を扱う生産マーケティング部長を務めるディーン・マレル氏だ。

まだ市販されてはいないが、まもなくAGCO社の梱包システムは同社のコンバインV8クラス全機種および他メーカーの製品にも提供される。



AGCO社が現在開発中のトウモロコシの穂軸・外皮・葉を集めて0.9m×1.2mの角型バールを作る技術。